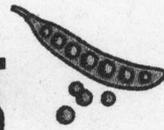


えんどうまめ通信



2015年3月

練馬区立中村小学校 心のふれあい相談員 遠藤 絵里



「勝っている?負けている?!

暖かくなって外で元気に遊んでいる子どもたちを見ていると嬉しくなります。その様子を見ていると、ときどき妙に勝負にこだわっている場面に出会うことがあります。スポーツならともかく、ちょっとしたゲーム、クイズ、遊びの中での出来事です。まあまあ、そんなに勝ち負けにこだわらずに……と思いつつ、ふと私たち大人はどうなんだろうと思わされました。

よくメディアや広告などにも登場する「勝ち組」「負け組」という言い方はどうでしょうか? 何が「勝ち」で何が「負け」かを一体誰が決めたのでしょうか。一般的には偏差値の高い学校に行くのは「勝ち」、収入の高い職業は「勝ち」、有名になれば「勝ち」、健康で美しければ「勝ち」。その逆はすべて「負け」……というように大人の偏った価値観があらゆる所にあふれているような気がしました。こうやって考えると、なんでも勝ち負けにこだわっているのは大人の方ではないかと思ったのです。

果たして人生に「勝ち」や「負け」はあるのでしょうか? もっと言うなら、「勝った」ところでそれが必ず「幸せ」なのでしょうか?

ホスピス医の柏木哲夫氏の著書を読むと、人は最期に必ず「もっと家族と過ごせばよかった」「あの人に謝りたい」「ありがとうを言いたい」など家族や周りの人との関係を想うものだわかります。「もっと仕事がしたかった」という人はいないようです。私たち大人は、今まで生きてきた中でかけられた言葉やされてきたことによってそれぞれの価値観が作られています。でも本来人間は、温かい愛のある人間関係をもつことが本当の幸せなのかもしれないと気づかされました。子どもたちが、家族の中でそれを持つことができたら、どこで生きていくことになっても、勝ち負けを考えない平和な心で過ごせるような気がします。

もし、今何かに「負け」ていると感じている子どもたちがいるなら、それは違うよ、勝ち負けなんて無い、こんなにあなたは愛されているよ、ということを伝えていきませんか?

6年生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます!

生まれてきて、12年間一生懸命生きてきた、そのことだけでも素晴らしいことです。どうか誇りをもって新しい一歩を踏み出してくださいね! 応援しています。

一年間、相談室の活動にご理解・ご協力いただき、本当にありがとうございました。